

市長在任8年の総括と  
次期市長選への思いは

Q &amp; A



梅原秀宣

**問** 一貫して掲げていた7つの命題をどう評価し総括するのか。

**答** 達成率は91・4%であるが、職員の努力もあり着実な進捗が図られている。

**問** 市の公共施設が139もあって財政上大きな問題となっているが、その再配置について今後の取組みは。

**答** 再配置計画を2018年に策定し、10施設の再配置を完了。現在、市民文化系施設、保健福祉施設、子育て支援施設等の個別計画策定の準備に着手。



近く解体される旧葎山庁舎

**問** コロナ禍で市は大変な状況に置かれているが、重点対策は。

**答** 「新しい生活様式」並びに感染予防

対策が市民一人ひとりに浸透するよう情報発信と情報収集に努め、市民の不安を取り除けるよう努力する。

**問** 次期市長選への思いは。

**答** 「命守りたい、赤ちゃんからお年寄りまで」をスローガンに掲げ市政を進めてきた。平成25年の初当選以来、新火葬場建設など3大インフラや幼保小中へのエアコン設置など、市民の声を聴きながら市職員と一丸となって取り組んできた。コロナ禍でも悲観せず、将来を見据え、次代を担う子供たちのためにも新たな夢に向かっていきたい。

**若年世代の定住促進と雇用創出**

**問** 人口減少がもたらす市民生活への影響は。

**答** 生産年齢人口の減少による地域経済の活力の低下、災害時のリスク増大、介護保険料の増加や小学校の再編などが懸念される。

**問** 若年男女の定住促進策は。

**答** 40歳未満の若年夫婦や子育て世代を対象とした補助金を創設。また、幼稚園預かり保育を拡充し子育て環境の整備に取り組んでいる。

**問** 雇用創出について今後の取組みは。

**答** 3月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定、企業誘致や創業推進など様々な雇用促進策に取り組む。

外出支援のタクシー券は  
見直しと拡充を

Q &amp; A



三好陽子

**問** 令和2年度は初乗り券9枚と電車バス利用券3000円で合計8490円。高齢者から不評の初乗り券を止め、今までのように全額を現金と同様に使えるようにすべきではないか。

**答** 外出の機会を多く持つて頂くために初乗り券にした。事業を評価するために3年間は今の仕組みでいきたい。

**問** 高齢者の免許返納などでますます外出が困難になっているので、タクシー券は増額すべきではないか。

**答** 75歳以上人口は、毎年400人から600人程増加する。現役世代の減少と限られた予算の中、対象年齢の引き上げや助成額の引き下げの検討が必要なので、増額は難しい。



**コロナ感染対策について**

**問** 子どもや高齢者に関わる職場で働く市民は、「自分が感染したら迷惑をかける」と危機感と不安を募らせている。医療機関や介護施設、学校などリスクの高いところでの定期的なPCR検査の実施が必要ではないか。

**答** 感染症対応は、県が責任をもつて取り組んでいる。県に対し積極的に協力していくが、市として定期的な検査の実施は考えていない。

**大河ドラマ館設置に向けた市の考えは**

**問** ドラマ館設置目的の「地域経済の活性化」「郷土愛の醸成」はどう取り組むのか。費用対効果の目標値は。

**答** 義時公講座、学校の総合学習に取り入れ、ドラマ館に偉業を学ぶ仕掛けをする。義時公を学び、郷土愛の醸成につなげていくことが大きな効果。

**問** 主舞台は鎌倉、財政にゆとりがない、コロナ感染を見通せない中、ドラマ館設置は慎重にすべきではないか。

**答** 舞台は鎌倉であっても、主人公のゆかりの地を巡る多くの方が絶えず来訪するので、ドラマ館は設置していく必要があると考える。

新型コロナウイルス 対策について



八木基之

問 感染防止の具体策は。

答 県による伊豆長岡地域の飲食店・観光施設の勤務者を対象とした抗原定量検査を1175人分実施し全員が陰性であった。

問 影響を受けている事業者への対応は。

答 すべての市内事業者を対象にして、県制度融資利用者への利子補給、持続化給付金、受給者への支援金追加支給、安全安心宣言の認定とプレミアム付商品券の発行を実施していく。

江間川について

問 浸水対策及び管理対策は。

答 江間川地区における内水処理計画の検討について、氾濫解析モデルを用いたシミュレーションを実施し、「分水嶺を移設する案」「農業用排水路を活用する案」「築堤及び逆流防止ひ門とポンプ設置の案」の3案が示された。

管理性などの総合的な評価により「農業用排水路を活用する案」を地元

関係者との間で協議を行ったが、合意を得られなかったため、今後、国・県・市で行っている勉強会で残りの案を含め早急に検討していきたい。  
管理は、地元を中心に河川愛護事業で今後も実施していく。



江間川(矢崎地区)浸水区域

大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の施策について

問 観光振興や地域振興はどのように考えているか。

答 大河ドラマは、全国から注目され知名度があがる北条氏をはじめ、源氏ゆかりの地であり、更に各時代が重層的に連なる、本市の歴史遺産や文化遺産を活用しドラマ館をハブとした、交流人口の拡大を図ることにより、ドラマの放送に向けた機運の醸成を図っていく。

「頑張ろう!!伊豆の国市応援券」は市民に分かりにくく不親切でお粗末



田中正男

問 地域経済の活性化を図ることを目的に、市民限定の40%のプレミアム付商品券事業が開始されたが、全世帯に送付されたのは、封筒に購入引換券が1枚入っているだけで、商品券発行の目的や使い方の説明と取扱事業所一覧が入っていない。これでは商品券事業の意味もどこで使えるかも分からず、交換もしない。なぜこのように不親切でお粗末な事になったのか。

答 本来の目的が消費喚起であるため、



頑張りましょう!! 伊豆の国市応援券

できるだけ早く実施したいということと準備していたが、取扱店舗の取りまとめと印刷に時間を要し、封入作業に間に合わず、不備があることは承知した上で、購入引換券のみを発送した。説明書についても予定していたが時間がなく、最善策として10月の広報に併せて回覧を入れた。

小松ヶ原別荘地の市有地管理について

問 小松ヶ原別荘地内に市有地が存在する経緯は。

答 小松道路開発株式会社と旧葎山町で昭和43年に協定を締結し、無償で7864平方メートルの提供を受けた。

問 過去に樹木伐採をしたと聞くと、その理由は。

答 平成22年度と28年度に、樹木が繁茂し電線への接触及び倒木の恐れがあり、市有地の適正管理のため、伐採間伐を実施し、平成30年度には、放置されていた伐採・間伐木及び倒木の除去を実施した。

問 市は、さらに伐採する計画や、当該地を整備する計画があるのか。

答 今後は30%程度の間伐を実施し、土砂災害に強い森林にしていく予定で、整備等の計画はない。

問 檜にテープで印があるが伐採か。市が伐採する印ではない。

新型コロナウイルス  
感染症に伴う経済対策に  
ついて



井川弘二郎

**問** プレミアム付商品券事業の、市民への周知、事業者への対応など充分であったか。

**答** 事業者に対しては9月1日付で商工会から商品券事業と安全安心宣言事業の実施について通知し、9月17日事業者向け説明会を実施、翌18日を一次締切り。市民に対しては、新聞等へ記事掲載を依頼し、9月24日、25日に購入引換券を作成、28日に各世帯へ郵送した。時間がない中での対応だったが、可能な限りの周知を実施したと考えている。

**問** 販売実績と安全安心宣言の改善点などについて。

**答** 10月の一次販売では、発行5万冊のうち1万7907冊。11月の二次販売では、1万4000冊。残り1万8000冊。

安全安心宣言については、11月12日時点で401事業者が宣言している。手続に関する問合せはあるが、取組内容等に対する御意見等は特にない。事業者の皆様は、前向きに取り組んでい

ただけていると認識している。

**問** キャッシュレス決済導入について

**答** 決済会社から事業実施の提案があったが、今回は実施を見送った。ただ、市内事業者でキャッシュレス決済の導入が進んでいることがわかった。今後、経済対策として商品券発行事業を実施する場合にはキャッシュレス決済にて実施することを検討していきたいと考えている。ただ、キャッシュレスに不慣れな方もいることを踏まえると、紙ベースの商品券とキャッシュレスの同時並行で実施とすべきではないかと考えている。

**問** 今後の経済対策は。

**答** 今後の状況によって、新たな対策の実施について検討していきたいと考えている。



イノシシの  
住宅地出没対策



鈴木俊治

**問** 過去5年間の捕獲数は。

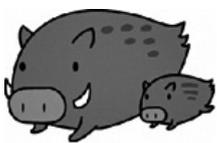
**答** 過去5年間の捕獲数は、平成27年度が172頭、平成28年度170頭、平成29年度284頭、平成30年度は249頭、令和元年度は305頭で、増加の傾向にある。

**問** イノシシの出没時の対応と被害防止方法は。

**答** 市民からの通報により職員が現地に出向く。イノシシがいる場合は追い払い、いない場合でも周辺のパトロールを行っている。被害防止目的の捕獲は、猟友会と連携して実施している。また、一般住宅に餌になる様なものを庭先等に放置しないようお願いしている。

**問** 一般住宅を対象とした補助金の考えはあるか。

**答** 稲作のウンカ被害等と合わせて補助金交付を考えていく。



高齢者福祉タクシー券の利用改善

**問** 610円の初乗り券を従来の100円券の方式に戻す考えはないか。

**答** 今年度新しい仕組みとしたので3年は続け、その上で見直したい。

**問** 仕組みに問題があるという声が多々上がれば、直ちに調査し修正するのが今の地方行政に求められていることだと思いが、この仕組みを、なぜ3年を維持しなければならないのか。

**答** 何か物事をやるときには何年か期間を区切って検証していくべきと考え3年で区切った。

**問** タクシー・バス・鉄道共通利用券とし、1万円に増額する考えはないか。

**答** 75歳以上の人口が増加し、限られた予算の中で事業内容の見直しが必要な時期となっているので、1万円に増額することは難しい。

大河ドラマ館設置について

**問** 費用対効果を前提にどの程度入場料金で財源を賄うのか。

**答** 運営費は、入場料収入で大体賄えると考えている。内訳は、スタッフの人員費、入場券の作成、広告宣伝費、警備清掃等全部含めて1億数千円。それに見合う収入を見込んでいる。